

日本学術会議公開シンポジウム

カーボンニュートラル化と資源循環に向けた 高分子化学のチャレンジ

プラスチックは私たちの生活を豊かに彩る一方で、持続可能な循環社会という観点からは、原料を石油に依存した生産体制やプラスチックごみによる海洋汚染など、多くの課題をかかえている。これらの課題解決には、再生可能資源を原料としたプラスチックや、海洋を含む広範な環境下で安全に生分解される高度な生分解プラスチック、一次製品と同等レベルの再生品製造を可能にする水平リサイクル技術などの開発・普及が急務であり、生産から廃棄処理までのライフサイクル全体を見渡した材料設計が必須である。本シンポジウムでは、アカデミアの研究者に加えて産業界の研究者にも登壇いただき、これらの課題について、高分子科学、材料科学、環境科学、バイオテクノロジーなどの広い視野から多面的に議論する。



要参加登録
登録先はこちら

日時 2022年11月8日(火) 13:00~17:30

場所 日本学術会議講堂 (※ 状況によりオンライン開催に変更することがあります)

定員 250名(先着順)・どなたでもご参加いただけます。

参加費 無料

趣旨説明 (13:00-13:05) 吉江尚子(日本学術会議連携会員,東京大学生産技術研究所教授)

第1部 講演 (13:05-16:10)

「炭素循環からみるプラスチックとの付き合い方」

吉岡敏明(東北大学大学院環境科学研究科教授)

「カーボンニュートラルの実現を目指したグリーンバイオプロセスの開発」

乾将行((公財)地球環境産業技術研究機構主席研究員)

「炭素循環型高分子合成を目指して」

野崎京子(東京大学工学系研究科教授)

「カーボンニュートラルに向けた高分子産業での取り組み」

小林定之(日本学術会議連携会員,東レ(株)化成成品研究所研究主幹)

「人類と自然環境の調和を目指した生分解性バイオマスプラスチックの挑戦」

岩田忠久(東京大学農学生命科学研究科教授)

「マイクロプラスチック問題の解決に挑む放射光利用のこれから」

佐々木園(日本学術会議連携会員,京都工芸繊維大学教授)

「高分子化学に関わる研究開発への期待」

藤田照典(日本学術会議連携会員,三井化学(株)シニア・アドバイザー,
中部大学先端研究センター教授)

第2部 総合討論 (16:20-17:20)

(パネリスト) 講演者+伊藤耕三

(モデレータ) 吉江尚子

閉会挨拶 (17:20-17:30) 伊藤耕三(日本学術会議連携会員,東京大学新領域創成科学研究科教授)

主催:日本学術会議 高分子化学分科会
NEDOムーンショット伊藤プロジェクト

後援:高分子学会

問合せ:polymer-challenge2022*gmail.com

(*を@に代えてください)

